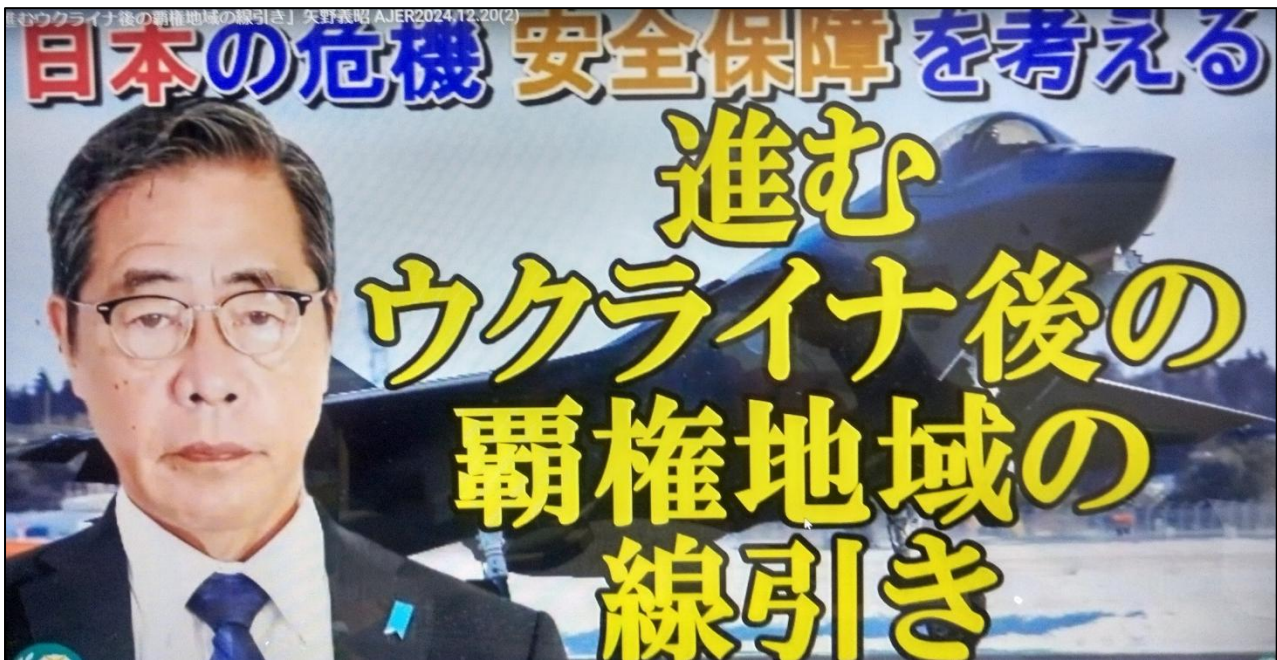


12月22日のウクライナ情報

安齋育郎

①「進むウクライナ後の覇権地域の線引き」(矢野義昭、AJER、2024年12月20日)

<https://youtu.be/5SxfwZYkr4c>



https://www.youtube.com/watch?v=nQ_rpnmkFgc

②ジョージアの抗議活動を暴露:政治家とKGBの政治犯(2024年12月14日)

<https://youtu.be/fmelNbGk-zs>



<https://www.youtube.com/watch?v=fmelNbGk-zs>

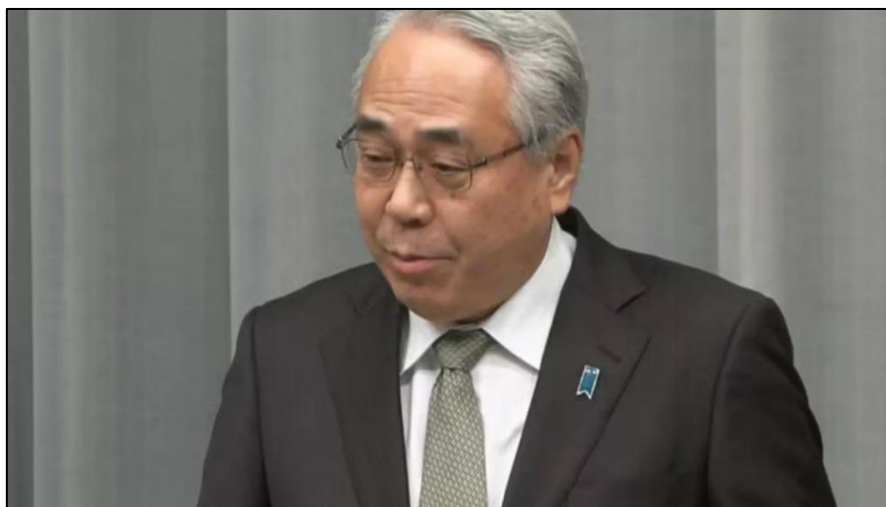
③日本は力強いウクライナ支援と厳しい対露制裁を継続＝官房副長官(2024年12月20日)

※安齋注: どうしようもないね。勉強してないんですね、きっと。あるいは理解力が欠如しているか。

佐藤官房副長官は定例会見でプーチン大統領の大規模記者会見について問われた中で、発言内容は承知しているとしつつ、次のように発言した。

「ウクライナに関する交渉にいかに臨むべきかはまずもってウクライナの人々の意思によるものでなければならないと考えます。我が国としてはロシアによる侵略を止め、1日もはやくウクライナにおける公正、かつ永続的平和を実現すべく、引き続き国際社会と緊密に連携しつつ、力強いウクライナ支援と厳しい対露制裁に取り組んで参ります」

先にウクライナで実施された世論調査によると、国民の大半は即時停戦を支持しているものの、ゼレンスキー氏はロシア側との交渉を大統領令で禁止しているほか、戒厳令を延長し続けることで大統領令で禁止しているほか、戒厳令を延長し続けることで大統領選の実施を許可せず、事実上の独裁体制を築いている。



<https://sputniknews.jp/20241220/19433895.html>

④ISU、ロシア選手の五輪出場を容認(2024年12月20日)



国際スケート連盟(ISU)は、2026年にイタリアで開催されるミラノ・コルティナ冬季五輪へのロシ

アとベラルーシの選手の中立ステータスでの出場を認める方針を示した。連盟広報が発表した。

フィギュアスケートやスピードスケートなどが対象となる。ロシアとベラルーシの国旗、エンブレムの使用は禁じられ、ISU 旗のもとでの出場となる。団体戦への参加は認められない。

ロシアとベラルーシの選手は、2022 年から現在に至るまで、ISU によって出場停止処分を受けていた。

<https://sputniknews.jp/20241220/19433895.html>

⑤プーチン大統領のスピーチから読み取るロシア経済について＝専門家(2024 年 12 月 20 日)

日本の元商社マンでロシアの「友好勲章」受賞者である朝妻幸雄氏はスプートニクの取材に応じた中で、堅実なロシア経済を次のように評価した。

「今回プーチン大統領が指摘しているようにロシアは2024年の GDP の購買力平価ベースでは日本を抜いて世界第四位になった。ロシア経済の悪化を目論んで制裁を科してきた G7 各国にとっては信じたくない数字であるが、国際金融の最も権威ある IMF が公的に発表した事実である。これはロシア経済が安定的に成長していることに加えて G7 各国の経済の低迷によって相対的に順位を上げた結果である」

「ロシアは長期間を費やして欧米諸国と築いてきた経済交流を遮断されたうえに 2000 件を超える制裁の逆風を受けながらも着実に経済を成長させてきた。同時にロシアが欧米との相互協力による発展を断念して BRICS、EAEU(ユーラシア経済連合)、SCO(上海協力機構)等の友好国との経済交流を強化し推進するという施策が着実に成果を上げていることを意味している。今後インフレの克服、出生率の低下の歯止めという課題は残されているが今回のスピーチから見るとプーチン大統領は今後も楽観的に見ているようである。欧米諸国はロシアに対する制裁が効果を上げていないことを素直に認めるべきであろう」



<https://sputniknews.jp/20241220/19433191.html>

⑥西側社会はウクライナ支援に疲れた＝ポーランド首相(2024年12月20日)

西側社会はウクライナ支援に疲れ切っている。ポーランドのトウスク首相は記者団に次のように語った。

「欧州諸国は団結していると言えますが、ウクライナ支援を強化する用意に関しては一定の例外があります。誰もが同じことを言っており、ポーランドでも同じ感覚を感じています。一般の人はこの戦争に疲弊する一方です」

また、全ての EU 加盟国がウクライナの勝利を望んでいるわけでもない指摘した。

「我々はこの戦争をできるだけ早く終わらせるためにあらゆる努力をしなければなりません、ウクライナの敗北という形ではいけません。私の感覚では、27人の指導者のうち、このことをよく理解しているのは24人から25人という印象です」

ポーランドはウクライナへの武器支援を積極的に継続しているが、安価なウクライナ産農作物の流入により、農業は崩壊している。そのため、農家らはウクライナ産農産物を搭載したトラックの移動を妨害するなどしている。

また、ポーランドは12月20日からロシア産ガスの購入を停止するため、エネルギー価格はさらに高騰し、経済もより深刻なダメージを受ける。ポーランドは消費する天然ガスの約半分をロシアから輸入していたが、今後はよりコストの高いガスに切り替えるため、価格は10%から20%近く上昇する模様。



https://sputniknews.jp/20241220/19433499.html?rcmd_alg=collaboration2

⑦トランプ氏は率直に質問した。「ゼレンスキー氏を就任式に招待したのか？」 (2024年12月17日)



<https://youtu.be/JJOPSDRHXCg>

マール・ア・ラゴでの記者会見で、トランプ次期大統領は就任式にウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領を招待したかどうか尋ねられた。

<https://www.youtube.com/watch?v=JJOPSDRHXCg>

⑧特別軍事作戦 12月14日～20日の概要 露国防省(2024年12月21日)

ロシア国防省は、特別軍事作戦の進捗状況に関する日報を発表した。スプートニクが最も重要な項目をまとめた。

- ・ロシア軍はドネツク人民共和国のウスペノフカ集落を解放した。
- ・ロシア軍「ツェントル」(中央方面)隊の戦闘ゾーンで、ウクライナ軍は1週間で2945人以上の兵士を損失した。
- ・ロシア軍「ユグ」(南方面)隊の戦闘ゾーンで、ウクライナ軍は2365人の兵士を損失した。
- ・ロシア軍「ヴォストーク」(東方面)隊は1週間で2集落を解放。ウクライナ軍は1215人の軍人を損失した。
- ・ロシア軍「セーヴェル」(北方面)隊の戦闘ゾーンで、ウクライナ軍は2675人の軍人を損失した。
- ・ロシア軍「ドニエプル」部隊が「パトリオット」発射機4基を破壊した。
- ・1週間でウクライナ軍兵士59人が投降した。
- ・1週間でロシアの防空システムが「ATACMS」を6発撃墜した。
- ・ロシア軍は、ウクライナの軍事施設および関連エネルギー・インフラ施設に対し、精密兵器とドローンで24回の集中攻撃を実施した。



<https://sputniknews.jp/20241221/121420-19436311.html>

⑨プーチン氏の史実言及は平和構築に向けての発言＝一水会・木村代表(2024年12月20日)

一水会の木村三浩代表は、プーチン大統領の、日本の軍事政権によって中国が払った人的損害についての言及と、日露平和条約締結に対する姿勢は矛盾しないと述べた。

歴史的事実の検証、記憶の上に世界平和を構築する、未来に向けての発言だったとの考えを示し、

木村氏自身も、史実の検証を日露平和条約の早期締結を推進するという自身の立場を表明した。



<https://sputniknews.jp/20241220/19435885.html>

〈関連情報〉

<https://twitter.com/i/status/1870106845496652074>

ロシアのプーチン大統領は 19 日、毎年恒例の「国民との対話」・年末記者会見のなかで露中の固い関係は、第 2 次世界大戦中、共に戦った時から続いていると語っている。



<https://sputniknews.jp/20241220/19435885.html>

⑩露日漁業交渉、合意至らず 再び継続に(2024 年 12 月 20 日)

ロシアと日本は、2025 年の双方の排他的経済水域 (EEZ) における漁船の操業条件などについて協議したが、合意には至らなかった。日程を改めて会議を開催し、引き続き協議を行う。日本の水産庁が 20 日発表した。

11 月末に行われた協議で合意に達することができず、12 月 19 日から 12 月 20 日に再度協議が開催されたが、再び継続協議となった。

日露の年次漁業委員会は、地先沖合漁業協定に基づき、両国の EEZ における相互の漁船の漁獲

枠について毎年協議を行っている。



<https://sputniknews.jp/20241220/--19435771.html>